

ごあいさつ

## —『地域未来創生センタージャーナル』第9号の刊行に寄せて—

地域未来創生センター（IRRC = Innovative Regional Research Center）は、弘前大学特定プロジェクト教育研究センターとして、2014年（平成26年）4月に弘前大学人文学部（現在の人文社会科学部）に設置され、本年度で9年目を迎えています。

設置以来、当センターは、人文社会科学分野の専門領域に立った各教員の学問的専門性に依拠しつつ、社会実装の視点に立って学術研究と社会貢献・地域貢献を一体化させるという明確な意図の下に、ユニークな研究活動を展開してきました。その目的は、地域の関係者の方々の御支援・御協力のもと、多方面にわたって進めている地域密着型の学術研究の成果を地域社会の活性化に役立てることに尽きます。

この度、地域未来創生センターでは、2022年度（令和4年度）の研究成果の一端として、『地域未来創生センタージャーナル』第9号を刊行する運びとなりました。

2023年を迎えた新年、本地域でも多く、前年の「インフレ」「円安」に触れた挨拶が交わされました。ここ30～40年間の統計をグラフ化すれば、円の価値が「つるべ落とし」に低下し、貿易赤字が急拡大していることは明らかで、日本の相対的な地位低下がみてとれます。もはや最先端のコト・モノが日本に集積する状況ではなくなりました。

一方で、日常生活の居住地としてみたときの日本の安全さ、清潔さ、ヒトの勤勉さは際立っています。そして、その傾向は地方部でさらに顕著です。

これらをふまえると、知見は国際的に求めつつ、ホームタウンとしての地域を守ること。もはや中央にならうのではなく広く世界に範をとって、地域独自の社会文化を発展させることを目指すべきといえましょう。そのことを誰の目にも明らかにしたのが、ここ一年の経済現象といえます。

人文社会科学の諸学問分野は、価値あるコト・モノを追究しています。個々の研究が地域の課題に直結するものではないにしても、総体として連ねてみると、地域社会をより正しい方向に牽引する役割をもつものです。

本ジャーナルを通じて、幅広い研究者を擁する本学部の特性を活かした、多方面にわたる研究成果の一端を、地域の関係者の方々をはじめとする多くの有識者の方々と共有させていただけたらと考えております。

今後も、人文社会科学部、ならびに地域未来創生センターへのご支援とご協力を、宜しくお願い申し上げます。

2023年2月1日

弘前大学人文社会科学部長 飯 島 裕 胤